

YP-1000

NATURAL SOUND SYSTEM
DIRECT DRIVE PLAYER MODEL YP-1000
GUIDE MANUAL

ヤマハダイレクトドライブステレオレコードプレーヤーシステム

取扱説明書



 **YAMAHA**

●ご挨拶

このたびはヤマハステレオレコードプレーヤーYP-1000をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

YP-1000はダイレクトドライブ方式の最高級ターンテーブルと超軽針圧でパーフェクトなトレーシングアビリティをもつ高級トーンアーム、共振のないがっしりしたキャビネットで構成され、加えて世界中に定評あるアメリカシユアー社の最新カートリッジV15タイプIIIを組合せた、ステレオレコードプレーヤーとして最高の水準を追求・実現させた製品です。

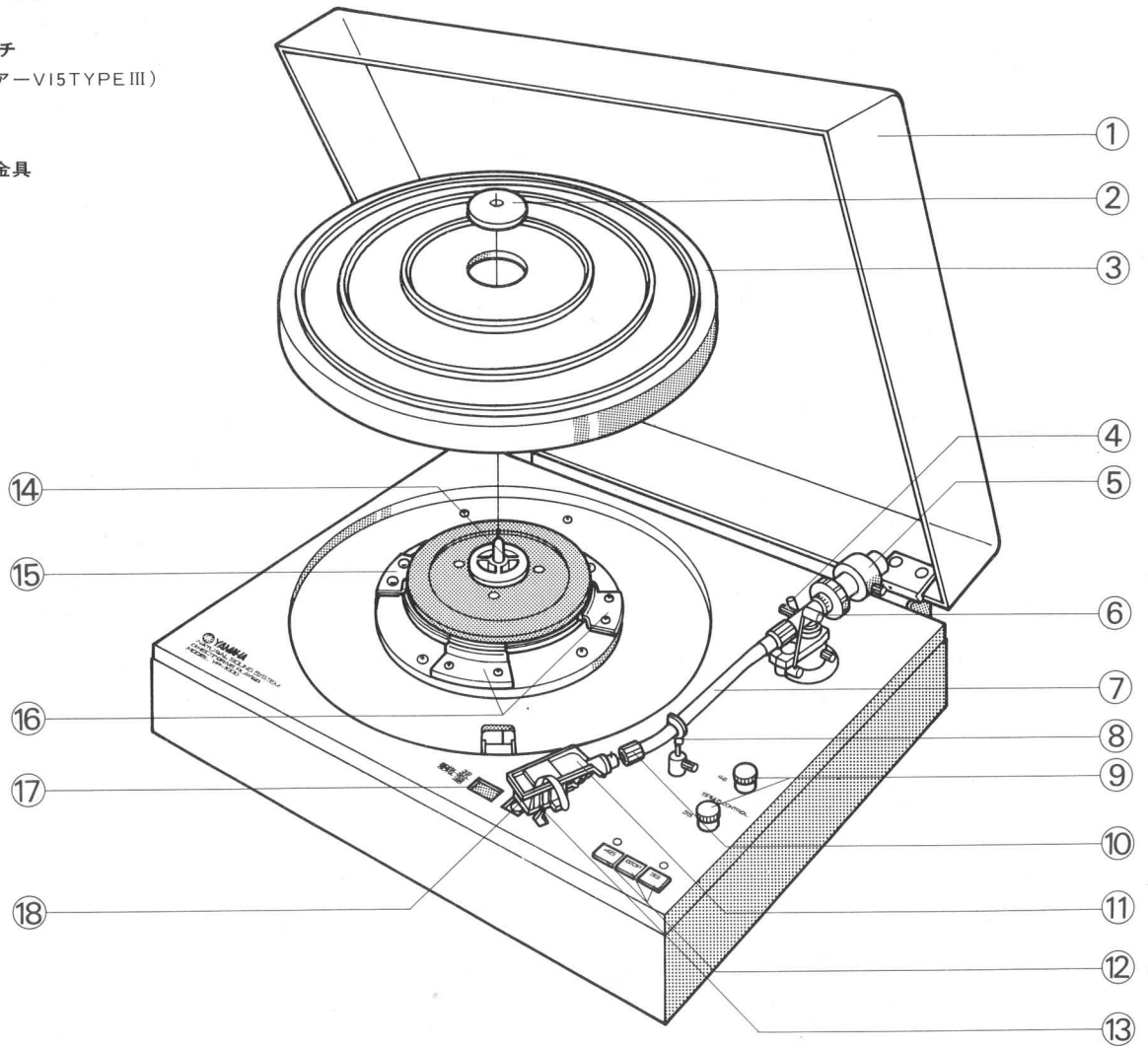
このパンフレットはYP-1000の取扱説明書で、長年故障なくその性能を発揮させるため、ご使用前に是非お読みくださいますようお願いいたします。

●目次

プレーヤー各部の名称	3
規格・トーンアーム梱包図	4
特長・ご使用になる前に	5
プレーヤーの組立てにあたって	6
輸送用固定ネジ類の取外し	6
アクリルカバーの取付け	6
ターンテーブルの取付け・水平バランスの調整	7
ターンテーブルの取付け	7
水平調整と水準器について	7
トーンアームの組立	8
トーンアーム各部の名称	8
トーンアームの組立	8
トーンアームの調整	10
トーンアームの高さ調整	10
トーンアームのバランス調整	10
針圧のかけかた	11
インサイドフォースキャンセラーの調整	12
アームリフターの使いかた	12
アンプへの接続・スピードの調整	13
オーディオアンプへの接続	13
ターンテーブルのスピード調整	13
レコード演奏のしかた	14
レコード演奏のしかた	14
他のカートリッジを使う場合	14
針先の交換・保守	15
針先の寿命と交換のしかた	15
モーターへの注油について	15
故障と思われる時には	16

プレーヤー各部の名称

- ① アクリルカバー
- ② オイルカバー
- ③ ターンテーブル
- ④ インサイドフォースキャンセラー
- ⑤ バランスウェイト (カウンターウェイト)
- ⑥ アームリフター
- ⑦ トーンアーム (STAX UA-7)
- ⑧ アームレスト
- ⑨ 调速ツマミ
- ⑩ ヘッドシェルロックナット
- ⑪ ヘッドシェル
- ⑫ スピード切換スイッチ
- ⑬ カートリッジ (シュア-VI5TYPE III)
- ⑭ センターシャフト
- ⑮ ローター保護金具
- ⑯ 輸送用ローター固定金具
- ⑰ ストロボスコープ
- ⑱ 水準器



規格・トーンアーム梱包図

●規格

■フォノモーター・ターンテーブル

モーター	DCサーボモーター (20極60スロット ブラッシュレス)
ターンテーブル	31cmアルミ削り出しヘアーライン アルマイト処理 (重量2.4kg)
回転数	33 $\frac{1}{3}$, 45rpm 2スピード
回転数調整範囲	$\pm 6\%$ ・各回転数独立調整
SN比	60dB以上
ワウフラッター	0.03%以下 (W.R.M.S.)

■トーンアーム — STAX UA-7 —

型式	S字型スタティックバランス方式
実効長	240mm
オーバーハング	13mm
取付カートリッジ自重範囲	最小2.5g～最大27g
ヘッドシェル	脱着可・カートリッジ取付EIA
針圧調整機構	直読方式・0～3g (0.1gステップ)
アームリフター	ハイドロリックピストンレバー方式
インサイドフォースキャンセラー	カウンターバー&ローラーアーム方式

■カートリッジ — シュアー-V15TYPE III —

型式	ムービングマグネット型 (MM型)
針先	0.7mil×0.2mil・ダイヤモンド

交換針	シュアー-VN35E (¥17,000)
適正針圧	1.0g (0.75g～1.25g)
重量	6g
最適負荷抵抗	47k Ω

■付属機構

水準器	パネル埋込み
ミラー式ストロボスコープ	パネル埋込み
上蓋	脱着可・フリーストップヒンジ付
インシュレーター	大型・高さ調整可

■電源・その他

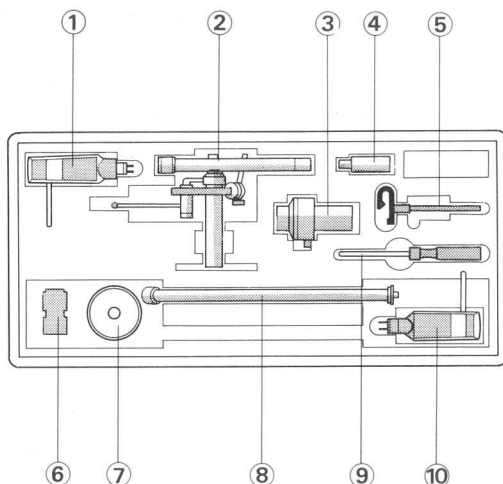
供給電源	AC100V・50/60Hz
消費電力	10W
外形寸法 (W×H×D)	481×175×371 (+21ヒンジ)mm
重量	13.7kg

■付属品

- ⊖小ドライバー
- 45アダプター
- オイル
- ピンセット
- ヤマハクリーナー
- レコードクリーナー

■性能向上のため規格は変更されることがあります。

●トーンアーム梱包図



- ①ヘッドシェル (シュアー-V15TYPE III つき)
- ②トーンアーム軸受部
- ③バランスウェイト・リングウェイト
- ④サブウェイト
- ⑤アームレスト
- ⑥ヘッドシェル付属品
- ⑦オイルカバー
- ⑧アームパイム
- ⑨ ⊕ 中ドライバー
- ⑩交換用ヘッドシェル

特長・ご使用になる前に

●特長

- 駆動モーターにダイレクトドライブ方式の20極60スロット・ブラッシュレス・DCサーボモーターを採用。ローターに直接ターンテーブルを接合し、低速で直接駆動するフォノモーターとして理想的な形式です。
- アルミ削り出しのターンテーブルは高い精度による工作技術で仕上げられ、自重2.4kg、慣性率が大きくワウ・フラッターは極限まで抑えられています。
- 安定化電源の使用によって外部電源の変動に影響を受けない設計です。さらに±6%の範囲で回転数を微調整することが可能で、ミラー式ストロボスコープで正しい回転数を確認できます。またスピード切換えと電源のON-OFFはリレー使用の電子式を採用、ワンタッチ操作となっています。
- トーンアームは定評あるSTAX-UA-7を採用。スタビライザーつきピボットによるワンポイントサポートの軸受をもち、

鋭敏な感度を誇る軽質量トーンアームです。

- カートリッジには世界の名器といわれるシュア一社の最新製品V15タイプIIIを採用。特性・音質ともに最高のクオリティを実現しました。
- キャビネットは堅牢な構造をもつキャストールオープンポア仕上げの木部とアルミダイキャストによって構成された共振皆無のものです。さらに十分な肉厚のアクリルカバー、プレーヤー底部のパンチングメタル、特殊形状の大型インシュレーターやプレーヤー内部部品をフロートするなど、外部からの有害な振動を抑えハウリングに強い設計になっています。
- 明るい新しい感覚による仕上げは、人間工学を追求した操作性とともに、ステレオの世界に大きく先行するデザインとなっています。

●次のことにご注意ください

- 電源電圧は定格の100ボルトでご使用ください。
- 直射日光や火気の強い場所、湿気の多い場所に設置することは避けてください。
- スピーカーシステムの近くや振動の多い場所に設置することは避けてください。床や台はなるべくしっかりした場所を選んで設置してください。
- 接続するオーディオアンプと並べて設置する場合は、YP-1000を右側にするようにしてください。カートリッジの近くにアンプの電源トランスが位置すると誘導ハム（雑音）を生ずることがあります。
- 木製のキャビネットを清掃する場合は、柔らかい布で乾拭き

してください。シンナー系の溶剤などは使うことを避けてください。

- アクリルの上蓋を清掃する場合は、付属のポリシングクロス、または同系の柔らかい布で乾拭きしてください。
- 7ページに説明するように水平に設置してご使用くださるようお願いいたします。
- お買い上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分ご注意くださいようお願いいたします。

プレーヤーの組立てにあたって

●輸送用固定ネジ類の取外し

輸送中の振動や事故などからメカニズムの大切な部分を保護するため、モーターの回転部のローターと電源ブロックを輸送用固定ネジ(赤、青)で固定してあります。このネジ類はご使用になる前に必ず取外してください。また取外したネジ類は引越しや修理依頼など再輸送の必要なときに、また固定する関係上だいに保存しておいてください。

またこの固定ネジを外さずに電源を入れたり、ターンテーブルを取付けたりしますと、ターンテーブルを傷めたり、他の故障原因となりますからご注意ください。

①ローター固定金具の取外し

ローター固定金具はローターの周囲3ヶ所に各2本の青ネジで固定されています。青ネジをゆるめ金具ごと取外します。(図2)

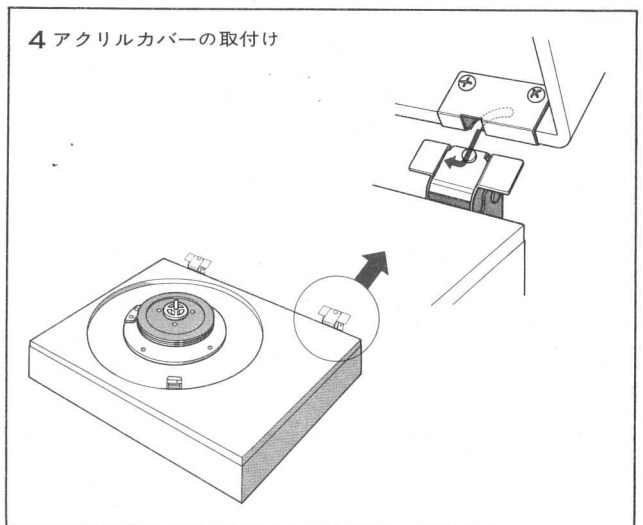
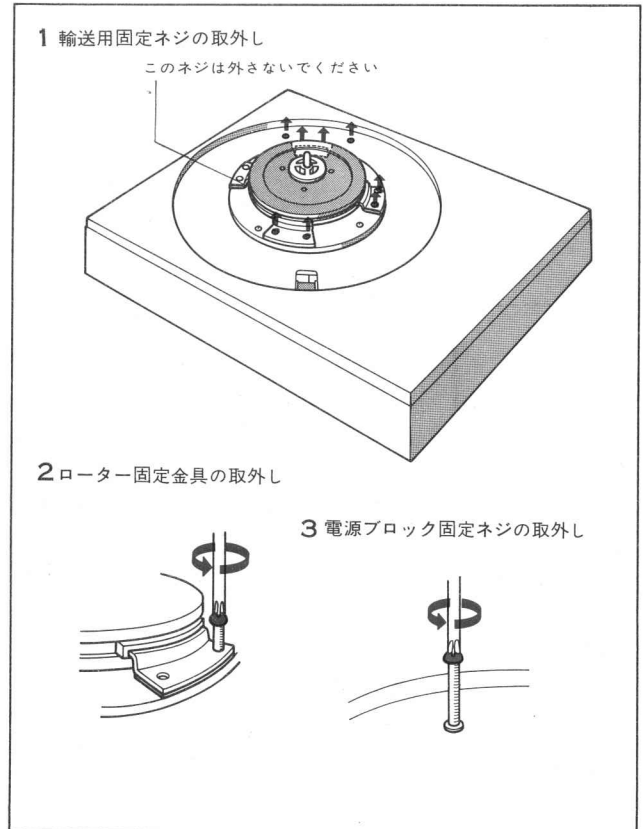
②電源ブロック固定ネジの取外し

ローターの左上部にある2本の赤ネジは電源ブロック固定用のものです。2本とも完全に取外してください。(図3)

(注) ローター周囲の黒ゴムキャップのついた金具は絶対に外さないでください。

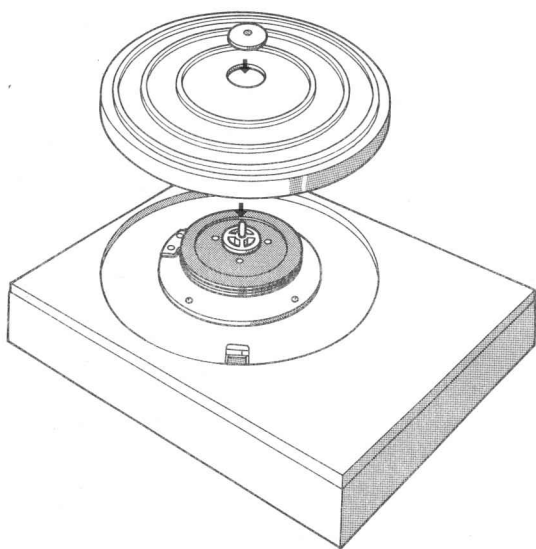
●アクリルカバーの取付け

アクリルカバーは脱着可能になっていますので、ご希望により取外してご使用になることができます。出荷時にアクリルカバーは本体より取外されて梱包されていますので図4のように突起と溝を合わせて矢印方向に押しながら取付けてください。



ターンテーブルの取付け・水平バランスの調整

5 ターンテーブル・オイルカバーの取付け

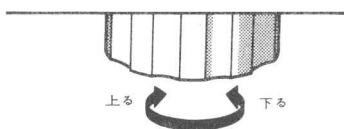


●ターンテーブルの取付け

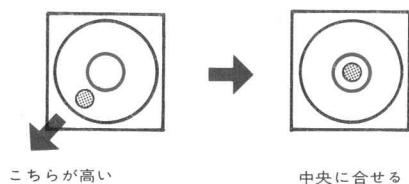
輸送用固定ネジ類を完全に取外したところで、ターンテーブルをセンタースピンドルにはめます。その後でオイルカバーをセンターシャフトにはめてください。(図5)

(注) この時ターンテーブルは両手でしっかりと支えて静かにはめてください。又注油などで取外す時も途中でプレーヤーボードの上に落とさないようご注意ください。

6 高さ調整



7 水準器



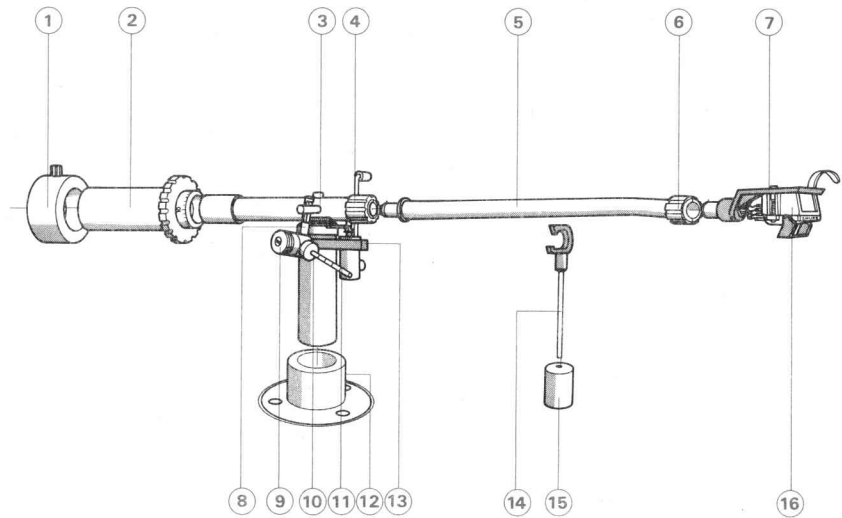
●水平調整と水準器について

YP-1000を設置するとき特に大切なことは、本体を水平に設置することです。水平でないと本来の高性能が発揮できない場合があります。プレーヤーボードのストロボスコープのとなりにある水準器を使い必ず水平に設置するようにしてください。キャビネット底面の4隅に外部振動を吸収するインシュレーターを兼ねた足があり、高さ調整機構が組込まれています。図6のように足を左右に回すことにより本体の高さを調整することができ、水準器の気泡を赤い輪の表示内に入るよう微調整してください。気泡が赤い輪の表示内に入ると本体は完全に水平を保っています。(図7)

トーンアームの組立

● トーンアーム各部の名称

- ① リングウェイト
- ② バランスウェイト(カウンターウェイト)
- ③ トーンアーム軸受部
- ④ アームパイブロックナット
- ⑤ アームパイプ
- ⑥ ヘッドシェルロックナット
- ⑦ ヘッドシェル
- ⑧ インサイドフォースキャンセラー
・ローラーアーム
- ⑨ バイアス解除クラッチ
- ⑩ バイアス調整ウェイト
- ⑪ カウンターバー
- ⑫ アームベース
- ⑬ アームリフター
- ⑭ アームレスト
- ⑮ アームレストベース
- ⑯ カートリッジ(シュアーVI5TYPEIII)



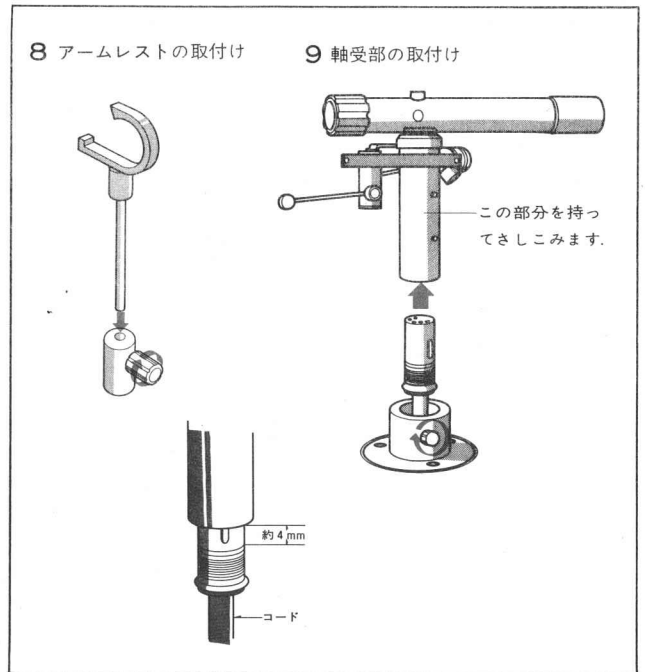
● トーンアームの組立

＜軸受部にわずかなガタつきがありますが、これはピボットを保護する耐衝撃装置によるもので故障ではありません＞

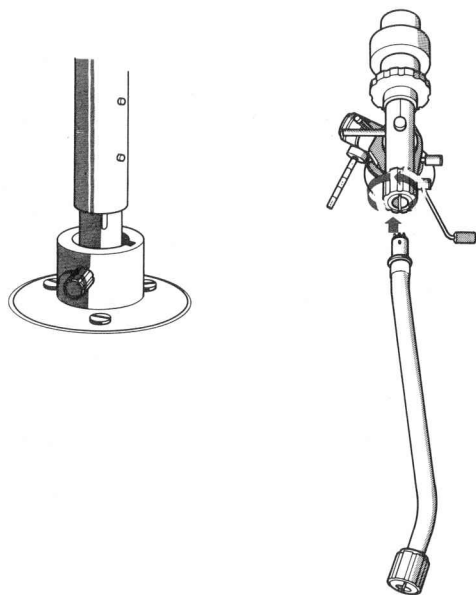
トーンアームは出荷時に各部分ごとに分解され、別梱包されています。プレーヤーボードにはアームベースとアームレストベースが固定されていて、さらにアームベースのセンターホールからトーンアーム用出力コードが引出され、仮固定されています。——次のような手順に従って正しく組立ててください。

(注)アームには精密加工がなされていますので組立ての際無理な力を加えないようご注意ください。

- ①アームレストをアームレストベースに仮固定します。(図8)
- ②軸受部の下部にあるソケットに、仮固定されている出力コードのコネクタを差込み接続します。軸受部の内部に切っ



10 アームベースへの取付け 11 アームパイプの取付け

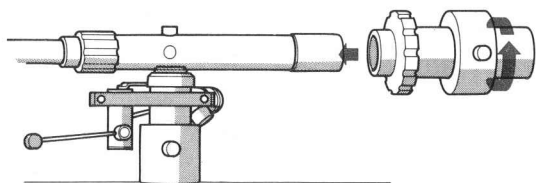


③軸受部シャフトにある2つの突起とアームベースの溝を合わせて差込み、アームベースのネジで軸受部を仮固定します。(図10)

④軸受部のアームパイプ取付け部へアームパイプのコンネクター側を、突起のピンを上にして差込み軸受部のロックナットリングを回して固定します。(図11)

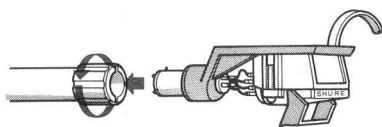
⑤ここでアームパイプをアームレストに固定してください。

12 バランスウェイトの取付け



⑥軸受部の後部のシャフトにバランスウェイトを差込みます。バランスウェイトは数字が刻まれている方を前にして、無理な力は加えないよう差込むと軽いクリックがあって取付けられます。(図12)

13 ヘッドシェルの取付け



⑦カートリッジが取付けられているヘッドシェルを、シェルの突起ピンを上にして、アームパイプのロックナット部へ差込みロックナットリングを回して固定します。(図13)

トーンアームの調整

● トーンアームの調整

トーンアームの組立てが済みましたら、高さ調整——バランス調整——針圧調整——インサイドフォースキャンセラーの調整の順にトーンアームの調整を行なってください。

■ トーンアームの高さ調整

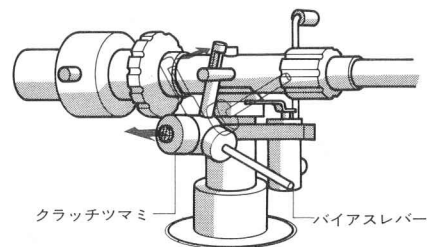
- ① トーンアームのバイアス解除クラッチつまみを引くと、バイアスレバーがフリーになります。(図14)
 - ② 次にターンテーブルにレコードをセットし針先をレコード面におろします。アームパイプがレコード面に平行になるよう軸受部のシャフトを上下して調整し平行がとれたら、トーンアームベースの固定ネジをしっかりと締めてください。(図15)
 - ③ トーンアームの平行調整が済みましたら、トーンアームをアームレストに戻し、アームレストの高さをアームがプレーヤーボードと平行になる位置に調整してください。(図15)
- (注) この調整をする時には、針先とレコードを傷めないように慎重に操作してください。

■ アームリフターの確認

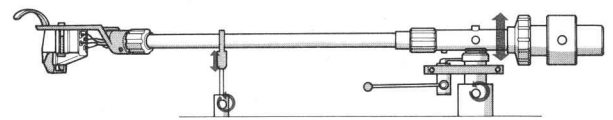
アームの高さ調整が済みましたら、トーンアームをアームレストに戻した状態で図16aのようにインサイドフォースキャンセラーのバイアスレバーの先端がインサイドフォースキャンセラーゴム受の上に来ていることを確認してください。もしにきていない場合は次の調整をしてください。

図16bのネジを付属の⊕ドライバーで少しゆるめ左右に動かしレバーがゴム受の上に来るように調整しネジをしめアームリフターを固定してください。このときアームリフターが上下にずれないように注意してください。

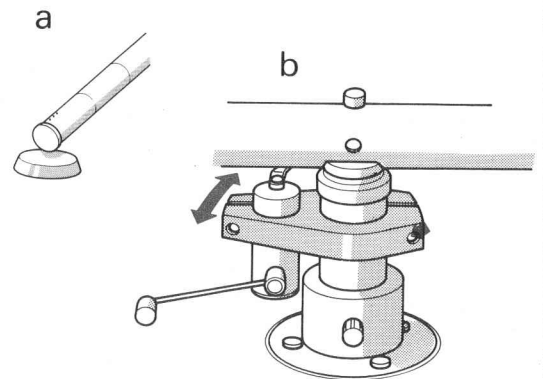
14 バイアス解除クラッチの操作



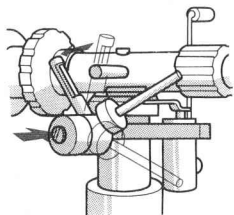
15 トーンアームの高さ調整



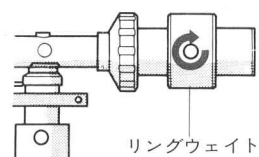
16 アームリフターの確認



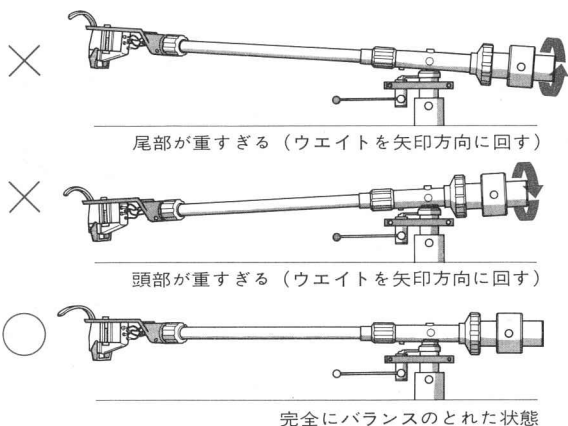
17 バイアス解除クラッチの操作



18 リングウエイトの調整



19 バランスの調整

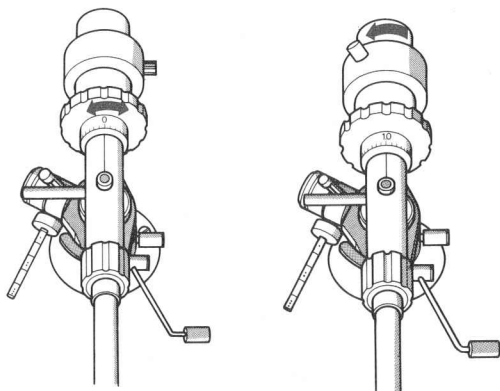


尾部が重すぎる (ウエイトを矢印方向に回す)

頭部が重すぎる (ウエイトを矢印方向に回す)

完全にバランスのとれた状態

20 針圧の調整



■ トーンアームのバランス調整

- ① インサイドフォースキャンセラーのローラーアームを図17のように点線位置に動かし、バイアス解除クラッチを押してローラーアームを固定します。
- ② バランスウエイトのリングウエイトを図18のように中心あたりに仮固定します。
- ③ 次にアームリフターのレバーを下げて、アームリフターを解除しておき、カートリッジの針カバーをかけてから、ヘッドシェルフィンガーに軽く指をかけてアームレストからトーンアームを引き出します。
- ④ フィンガーから指をはなしてトーンアームの水平バランスをテストします。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下り、バランスウエイト側が重ければ尾部が下ります。
- ⑤ トーンアームのバランス具合によって、バランスウエイトを回しトーンアームが完全に水平になるよう調整します。バランスウエイトは右に回すと頭部が重くなり、左に回すと尾部が重くなります。(図19)
- ⑥ バランスウエイトの調整によって水平バランスがとりきれない時は、リングウエイトの位置を適宜に前後させてから、もう一度バランスウエイトを回して水平になるよう調整します。

■ 針圧のかけかた

- ① トーンアームの水平バランスがとれましたら、バランスウエイトの本体を動かさないようにして、前部の針圧リングのみを回し、数字の“0”を軸受部の黒ラインに合わせます。(図20)
- ② 次にバランスウエイトの本体を図20の矢印方向に回すと針圧がかかります。目盛はひと目盛0.1gで、1回転で3gの針圧が得られます。ご使用になるカートリッジの仕様に従って適正な針圧をかけてください。附属カートリッジのシュアーV15タイプⅢは適正針圧 1.0 gです。
針圧は軽すぎても重すぎても最良の再生音が得られません。

トーンアームの調整

■インサイドフォースキャンセラーの調整

- ①針圧をかけた後、バイアス解除クラッチを引くと図21のような実線位置にローラーアームが移動し、インサイドフォースキャンセラーが働く状態になります。
- ②バイアス調整ウェイトを動かして使用針圧の位置に合わせますが、目盛は・印が1g、・・印が2g、…印が3gとなっていて、その中間位置は0.5gステップとなっています。附属カートリッジのシュア-V15TYPEIIIは、適正針圧1.0gですからバイアス調整ウェイトが・印の後位置が適正です。(図22)

(注) レコード演奏にかかるとき、バイアス解除クラッチが引かれてフリーになっていることを、必ず確認してください。ロックしたままの状態で使用しますと、レコードや針先を傷める場合があります。

■アームリフターの使いかた

アームリフターはレコード面に針を降ろすとき、レコード面から針を上げるときなど、直接ヘッドシェルに手をふれることなくトーンアームを昇降させることができ、針やレコードを傷めることはありません。

①針先を降ろすとき

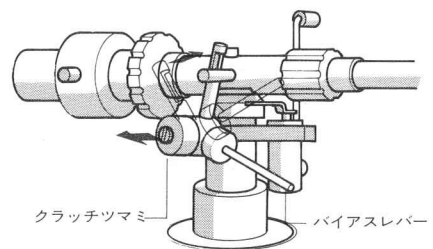
アームリフターレバーを上いっぱい上げておき、トーンアームの針先をレコード面の希望位置に合わせて、レバーを下げてください。針先は油圧シリンダーによってゆっくりレコード面に降ります(図23)

②針を上げるとき

演奏中または演奏終了後はレバーを上いっぱいあげれば、針先がレコード面より離れます。(図23)

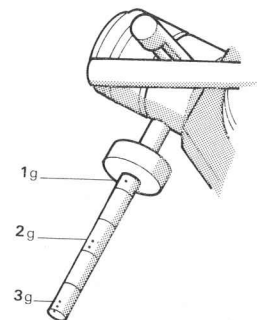
アームリフターレバーを上いっぱい上げたときにカートリッジがレコード面から離れないあるいは離れすぎる場合には図23 bのネジを少しゆるめ油圧シリンダーの高さを適切な位置に調整しネジをしめてください。

21 バイアス解除クラッチの操作



22 バイアスウェイトの調整

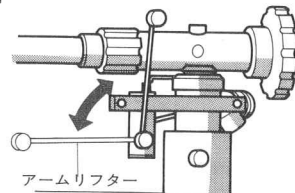
針圧1.0g時のバイアスウェイトの位置



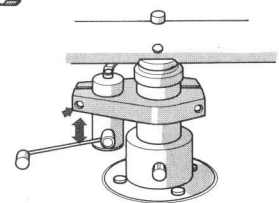
23 アームリフター

気温によってオイルの粘度が変化し降下速度が変わることがあります。

a

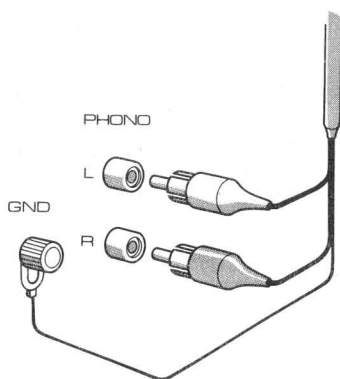


b



アンプへの接続・スピードの調整

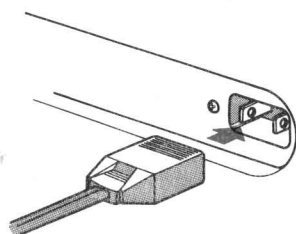
24 オーディオアンプへの接続



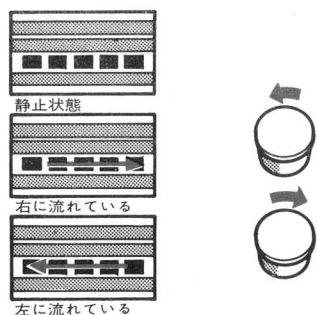
●オーディオアンプへの接続

- ①キャビネット背面からひき出されている出力コードL(白), R(赤)をオーディオアンプのPHONO端子のL, Rへそれぞれ差し込み接続します。(図24)
- ②出力コードから出ている黒リードのアース線は、オーディオアンプのGND端子へ接続してください。アンプによっては接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得られることがありますから、実際に使用してハム雑音の少ない方を選んでください。
- ③接続するオーディオアンプに入ラインピーダンス切換スイッチがある場合は、附属カートリッジのシユアーV15タイプⅢのままでしたら50kΩまたはその値にいちばん近い値のポジションにセットしてください。(シユアーV15タイプⅢの出カインピーダンスは47kΩ)
- ④電源コードは別途梱包されていますから、キャビネット背面ソケットへ図 のように接続し、コンセントプラグはオーディオアンプの子備電源コンセントのSWITCHEDへ接続してください。(図25)

25 電源コネクターの接続



26 ストロボスコープと調速ツマミ



●ターンテーブルのスピード調整

ターンテーブルは電源の電圧変動や周波数変動に対しても、正確な回転数を維持するよう電源部に電圧安定回路を内蔵し、電子速度制御を行っていますから一度スピード調整つまみ(SPEED CONTROL)を動かす、ストロボスコープを見てご使用地域の周波数に合った縞目が止まるよう調整すれば回転数の変動はありません。又時々ストロボスコープの縞目がほんの微か流れて静止しない場合がありますが、これは電源周波数の変動によるもので故障ではありません。なおSPEED CONTROLつまみによって回転数は±6%(約半音)可変できますから、ピッチコントロールとして使うことができます。(図26)

レコード演奏のしかた

●レコード演奏のしかた

- ①接続されているオーディオアンプのファンクションスイッチをPHONOポジションにします。
- ②演奏するレコードに合った回転数のスピード切換スイッチ(33または45)を押すとターンテーブルは回転しはじめます。
- ③カートリッジの針カバーをあげ、アームリフターレバーを上をいっばいあげておき、トーンアーム針先をレコードの演奏希望箇所の上にセットしリフターレバーを静かに下げます。
- ④レコード演奏が終了または途中でやめるときは、リフターレバーを上をいっばいあげると、針先はレコード面から離れますから、トーンアームを静かにアームレストに戻し、STOPボタンを押してターンテーブルを停止させます。ターンテーブルは慣性でしばらく回り続けていますが、ダイレクトドライブ方式ですから手で停めても支障はありません。

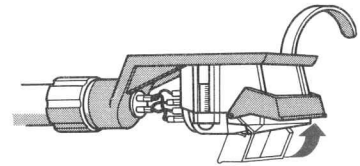
●他のカートリッジを使う場合

カートリッジを付属のシュア-V15TYPEⅢから、他の機種に交換する場合は、付属の交換用ヘッドシェルに取付けてご使用ください。この時トーンアームの調整の項に従って、高さ調整——バランス調整——針圧調整——インサイドフォースキャンセラーの調整の順にトーンアームの調整を行なってください。又付属のシェル以外のシェルを使った場合も同様です。

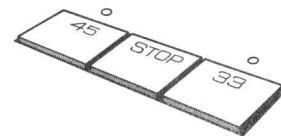
■使用できるカートリッジの自重とサブウェイトの使いかた
カートリッジの自重が2.5g～17gまでのカートリッジであればメインウェイトの調整だけで使用することができます。重さが17gを越えるカートリッジをご使用になるときは、次の手順でサブウェイトを取付けてご使用ください。(図29)

- ①メインウェイトを取外します。
- ②サブウェイトをトーンアーム尾部にねじ込みます。
- ③再びメインウェイトを取付けます。
- ④トーンアームの調整の項に従って各部の調整を行ないます。

27 針カバーの操作

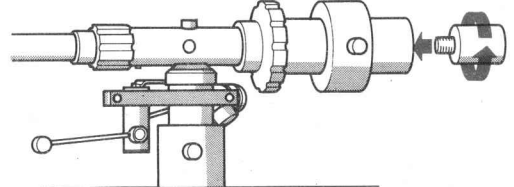


28 スピード切換スイッチ



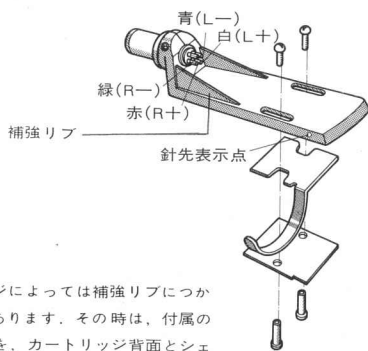
45スイッチを押したときに33の表示が一瞬点灯する場合がありますがこれは故障ではありません。

29 サブウェイトの取付け



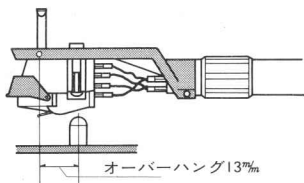
針先の交換・保守

30 ヘッドシェルリード線接続図

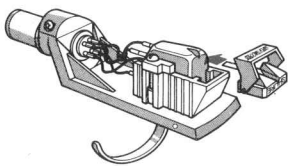


カートリッジによっては補強リブにつかえることがあります。その時は、付属のスペーサーを、カートリッジ背面とシェルの間に挟んで取付けてください。

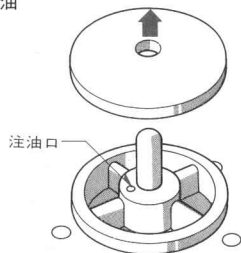
31 オーバーハング



32 針先の交換



33 モーターへの注油



■ヘッドシェルへの取付け

付属のシェルに他のカートリッジを取付けて使用する場合は、リード線の接続を間違えないようにカートリッジの各ピンに正しく接続してください。(図30)

■オーバーハングの調整

- ① 付属のシェルを使い他のカートリッジを取付ける場合は、ヘッドシェル右側面にある白い点に針先が合うよう取付けるとオーバーハングがとれます。(図31)
- ② 付属シェル以外のヘッドシェルを使うときは、ターンテーブルシャフトと針先の間が約13%になるようカートリッジを取付けてください。

●針先の寿命と交換のしかた

針先はダイヤモンド針を使用しています。寿命はご使用になるレコードの状態によって異なりますが、200～300時間が平均です。針先が磨耗すると音が歪んだりビリついたりする上レコードを傷める原因にもなりますので、針先は早めに交換してください。交換針はヤマハステレオ特約店に用意されていますので、YF-1000用・シュア-VN35E(¥17000)とご指定ください。

■針先の交換

- ① トーンアームからヘッドシェルを取外します。
- ② 古い針先ホルダーを手前に引いて取外します。(図32)
- ③ 新しい針先を②と逆の方法でしっかりさしこみます。
- ④ ヘッドシェルをトーンアームに取付けます。

●モーターへの注油について

注油の際は、ターンテーブルとオイルカバーを外し付属のオイルで図33の軸受部の注油孔へ約2000時間に一度約1滴注油してください。本機のモーターは、従来のモーターよりもはるかに注油間隔が長いので必要以上には注油しないようにしてください。

故障と思われる時には……

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の

点がございましたら、お買い上げ店又は日本楽器各支店のオーディオ技術係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
電源が入っているがターンテーブルが回らない	輸送用固定ネジの外し忘れ	輸送用固定ネジを完全に取外す
	電源コネクターの接続不良	プレーヤー背面の電源コードコネクタを確認
ターンテーブルの回転が遅すぎる又は速すぎる	調速ずれ	調速ツマミとストロボスコープで正しく調整する
調速ツマミを調整してもストロボスコープの縞が止まらない	調速ツマミの誤調整	調速ツマミの回転数とストロボスコープの周波数と回転数を照合し再び調整する
	ストロボスコープの見間違い	ストロボスコープ横の表示により周波数と回転数を確認し再び調整する
カートリッジを交換した時など0バランスがとれない	インサイドフォースキャンセラーのローラーアームが針圧調整時の位置にロックされていない	針圧調整の項を参照しローラーアームをバイアス解除クラッチを押して正しい位置にロックする
トーンアームが降りない	アームリフターがUPの位置になっている	アームリフターの使い方の項を参照し正しく操作する

針先をレコード面に降ろしても音が出ない	アンプのファンクションがPHONOになっていない	ファンクションを正しくPHONOに合わせる
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげる
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプリアースパネルの接続端子を確認する
	アーム軸受部のコネクタと出力コードの接続不良	アーム軸受部をアームベースより外し確認する。
	カートリッジを交換した場合にトーンアームの高さが不適当でカートリッジの腹がレコード面に擦っている	トーンアームをカートリッジに合った高さに正しく調整する
音は出るがアームが先へ進まない	インサイドフォースキャンセラーのローラーアームが途中位置でロックの状態になっている	アームをいったんアームレストに戻してからバイアス解除クラッチを引いてローラーアームをロックから解除する

再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”“パチ、パチ”という音がし、特に高音域がはずんで汚ない。	プレーヤーが水平でなく傾いている	水準器をみながら水平に設置する
	針先にホコリなどが付着している	針先を柔らかいハケなどできれいにする
	針先が磨耗している	針先を交換する
	レコード自体が傷んでいたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してみる
	針先が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直す
	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみる
再生音がふるえたり、ハウリング（ボウーンという音）を起して聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてみる
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない	アース線をアース端子に接続する (接続しない方がいい場合もある)

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオサービス係へお願い致します。

■支店への持込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上店又は最寄りのヤマハ各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得ですし短期間でおなおしすることができます。裏表紙のヤマハ各支店の住所と電話番号をご参照ください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか？”とお思いになる点がありましたら、まず“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。故障ではなく、ご自分でかんたんにおなおしになれる場合もあると思います。（ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障ではない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきます）

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（ステレオの具合をもう少しわしくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしなさいです）

■故障の状態はくわしく

サービスをご依頼なさるときは、故障の状態をできるだけくわしくお知らせください。またステレオの型番、製造番号などもあわせてお知らせください。（サービスにお伺いする際、あらかじめ補修部品などを手配し、二度お伺いしなければならぬようなご迷惑をおかけすることがありません）

■サービスのお約束

お仕事の関係で昼間ご不在がちなお客様や留守勝ちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂

きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪くなられましたら、できるだけおはやくご連絡くださるようお願い致します。（事前にご連絡をいただきませんと、ご不在の場合でも、出張料を頂戴いたしますので、ご注意ください）

■保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■万一お買上店でのサービスについてのご不満又は製品の不調や疑問がございましたら、ご面倒ではございますが、下記ヤマハ各支店オーディオサービス係にご連絡くださいますようお願い致します。

■各支店住所（オーディオサービス係）

本社・〒430-91	浜松市中沢町10-1(オーディオサービス課) TEL (0534)61-1111(大代表)
東京本社・〒104	東京都中央区銀座7-9-18(パールビル内) TEL (03)572-3111
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)431-2151
北海道支店・〒060	札幌市中央区南三条西4-12(エイトビル内) TEL (011)281-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (0222)27-8511
広島支店・〒730	広島市紙屋町1-1-18 TEL (0822)48-4511
浜松支店・〒430	浜松市鍛冶町122 TEL (0534)54-4111

日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430-91・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(61)1111	神戸店	〒650・神戸市生田区元町通り2-188 TEL・078(321)1191
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	四国店	〒760・高松市丸亀町8-7 TEL・0878(51)7777
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
渋谷店	〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL・03(463)4221	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(431)2151
池袋店	〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL・03(981)5271	福岡店	〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜店	〒220・横浜市西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	小倉店	〒803・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
相鉄店	〒220・横浜市西区南幸1-5-1/相鉄ジョイナス内 TEL・045(311)6361~4	北海道支店	〒060・札幌市中央区南三条西4-12/エイトビル内 TEL・011(281)6111
千葉店	〒280・千葉市中央4-2-1/まつだやビル内 TEL・0472(24)6111	仙台支店	〒980・仙台市1番町2-6-5 TEL・0222(27)8511
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
心斎橋店	〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松支店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
梅田店	〒530・大阪市北区梅田1/阪神百貨店5階 TEL・06(345)4731	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ ・シンガポール・フィリピン